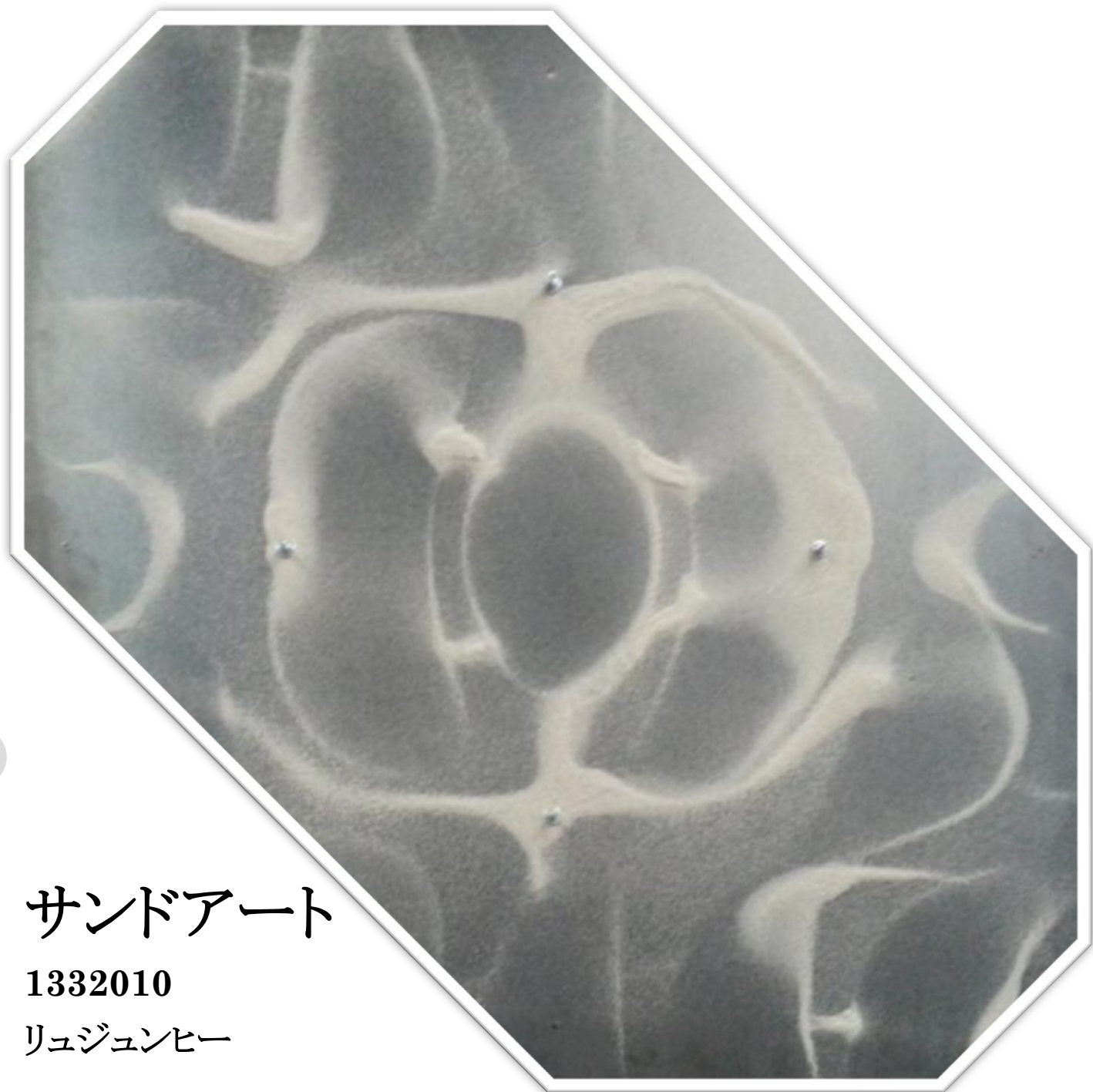




サンドアート

1332010

リュジュンヒー

1.コンセプト

○ 最初の企画書

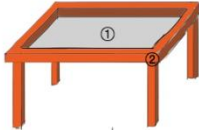
企画書 - サンドアート

長嶋ゼミ
デザイン研究科1332010
リュジュンヒー

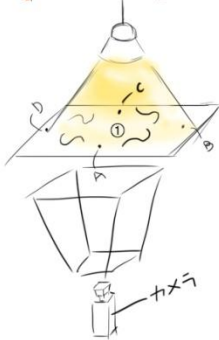
1.作品のコンセプト

サンドアートから始まり、誰でも美しいサンドアートできる、そして音でフィードバックをあげてそこから面白さを感じる、これをコンセプトにし、この作品を企画しました。

2.構成と動作の仕掛け

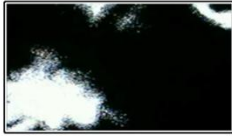


(1) 構造を大きく割ると砂をおいて振動させて模様を作るパネルの①番とそれを支える②番になります。

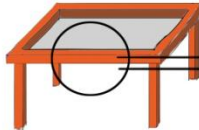


(2) ①番だけ見ると上から照明で照らしていて黒い砂の影が下のカメラからよく読めるように白くて半透明の素材でつろうと思います。

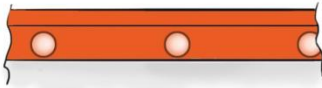
(3) 振動はA~Dまで四つの場所で振動させます。それは作品を見ることでは参加できる作品にしたいので、②番のテーブルの四つの枠にセンサーを入れて人のさわりを読み込んで振動の量を変えてより多い模様作りためです。



(4) 最後の写真はテーブルの中の照明で黒く見える砂の模様がカメラでよく取れてるのでカメラが中に入っても外の照明があったら読み込めると思いました。



(5) テーブルの仕掛けについて説明するとAのところにセンサーをいれて'3'で説明したように人のさわりを読み込みます。



(6) 出来ればテーブルの枠の裏の方に照明を入れてすべての動作がテーブルで行うようにしたいです。

3.音のフィードバック

音に関してはまだ考えている中ですが各振動する場所にメロディや打楽器などのパートを分けて触る人が演奏してる感じをもらえるように企画しました。

1.コンセプト

○ 修正された企画書

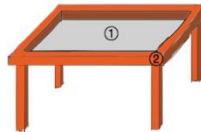
企画書 - サンドアート

長嶋ゼミ
デザイン研究科1332010
リュージュンヒー

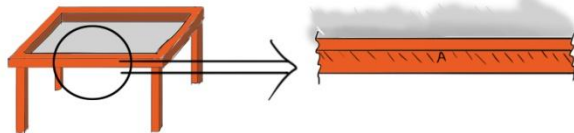
1.作品のコンセプト

サンドアートから始まり、誰でも美しいサンドアートできる、そして音でフィードバックをあげてそこから面白さを感じる、これをコンセプトにし、この作品を企画しました。

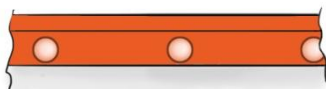
2.構成と動作の仕掛け



(1) 構造を大きく割ると砂を置いて振動させて模様を作るパネルの①番とそれを支えてる②番になります。



(2) テーブルの仕掛けについて説明するとAのところにセンサーをいれて人の手で触る仕組みを読んでそれをそれぞれ角についている振動のスピーカの振動数を変えます。



(3) 出来ればテーブルの枠の裏の方に照明を入れて触る場所のLEDが光ったりして音だけではなく光のフィードバックも一緒にあげます。

3.音のフィードバック

音に関してはまだ考えている中ですが4つの振動するスピーカの振動数を分けるので振動数の量で音の高さや種類を変えますようにするつもりです。

4.実験の中間評価



1と2の真中の部分は大きい変化は見えないし、色んな似ている作品よりは繊細な模様が見えないので板の素材や大きさ、スピーカの位置に問題があると仮定し、3,4,5のように板を正方形に切って一つは角の方に、一つは真中の方にスピーカをつける穴を出しました。

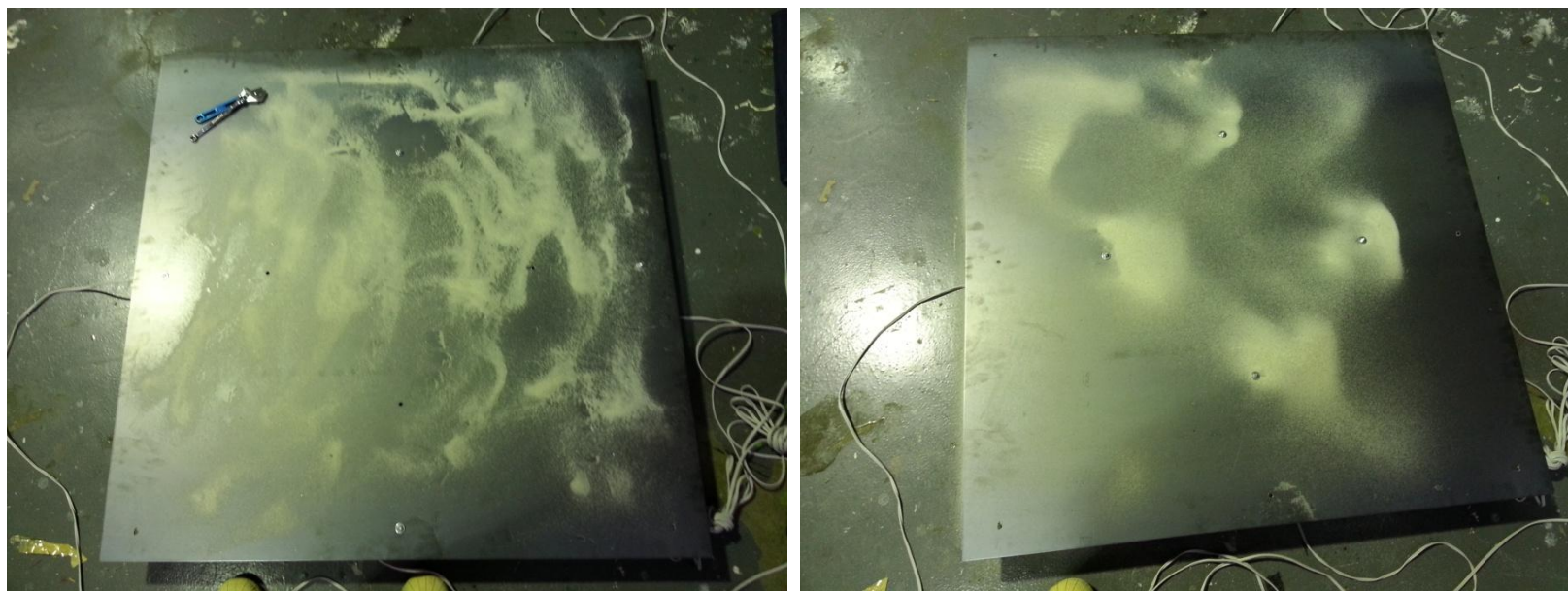
1.コンセプト

○ 企画が変わった理由

- 最初考えた砂の模様を読み込んで音と画像認識し音響を生成フィードバックすることから決まった音を出すことにした理由は似た作品を検索しながら同じ周波数では砂の模様が同じであるので画像認識より出してる周波数に関連させるのが効率にいいと思い、企画を変更しました。
- そして最初行った実験では木の板で行いましたが、木の板の振動を伝えるのが金属に比べ、敏感ではないので模様の変化は見られますが、模様の形が繊細ではなく美しくないなので素材の変化を行いました。

2.実験と問題点

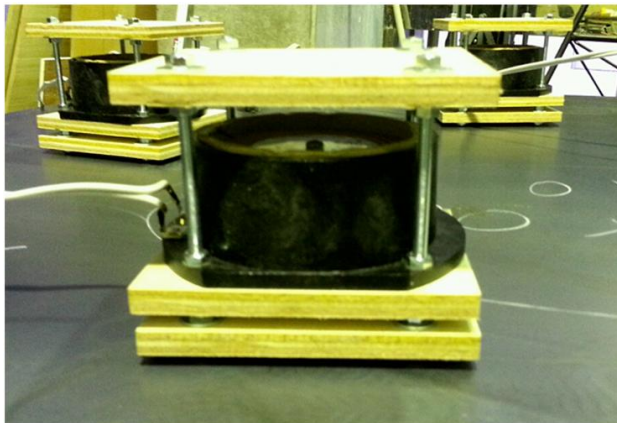
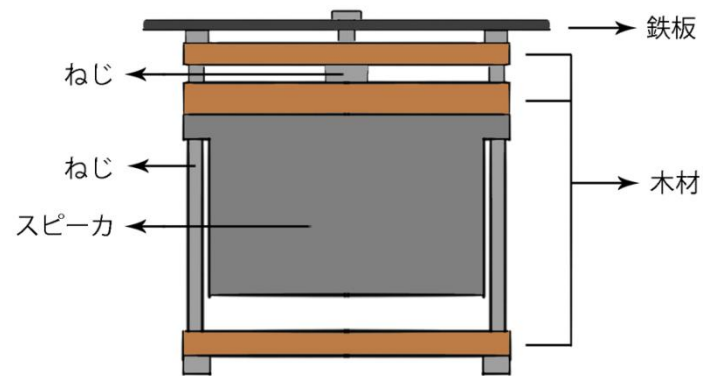
○ 実験の写真と問題点、解決した方法



-鉄板で素材が変わって行った写真ですが素材を変更するだけではうまく振動が伝わらないので、本や他の作品を見ながら考えたら振動体が全体的に鉄板とあたっているのが問題だと認識し、1点接触に変わりました。

2.実験と問題点

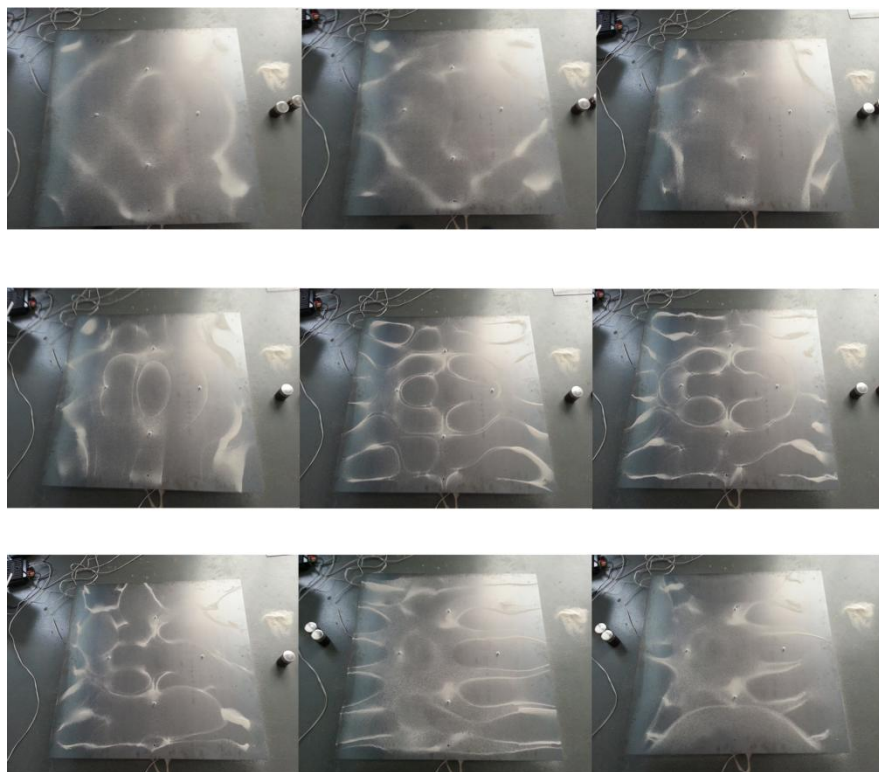
○ 1点接触の設計図と実際物



2.実験と問題点

○ 実験の結果

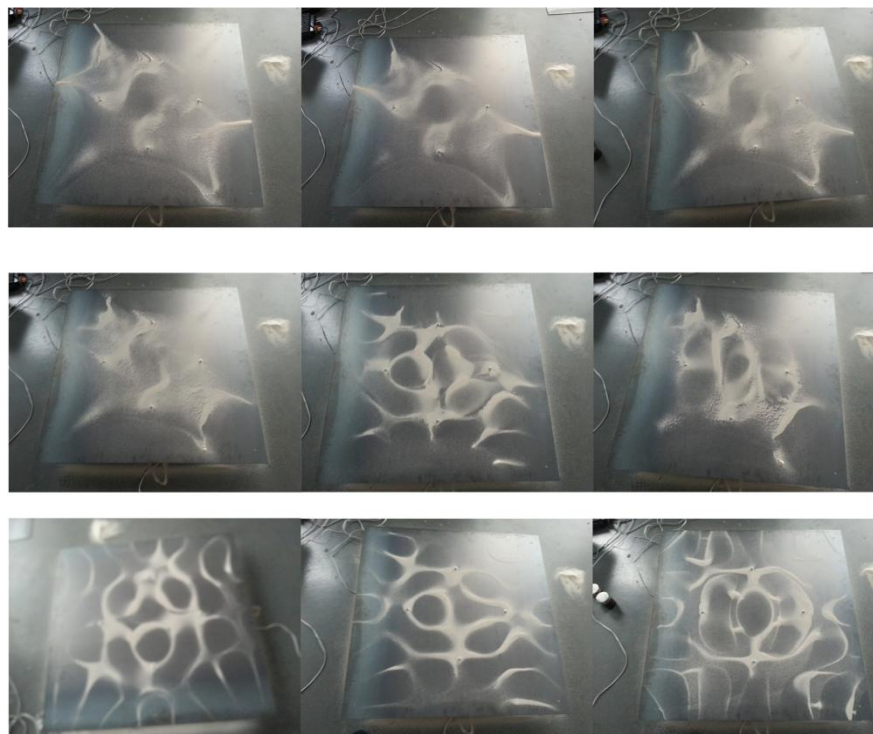
-次の写真は1つ点接触で一つのスピーカーを振動させて共鳴させてもらった砂の妙ですが振動が高くなるほど模様は複雑で綺麗に出ました。



2.実験と問題点

○ 実験の結果

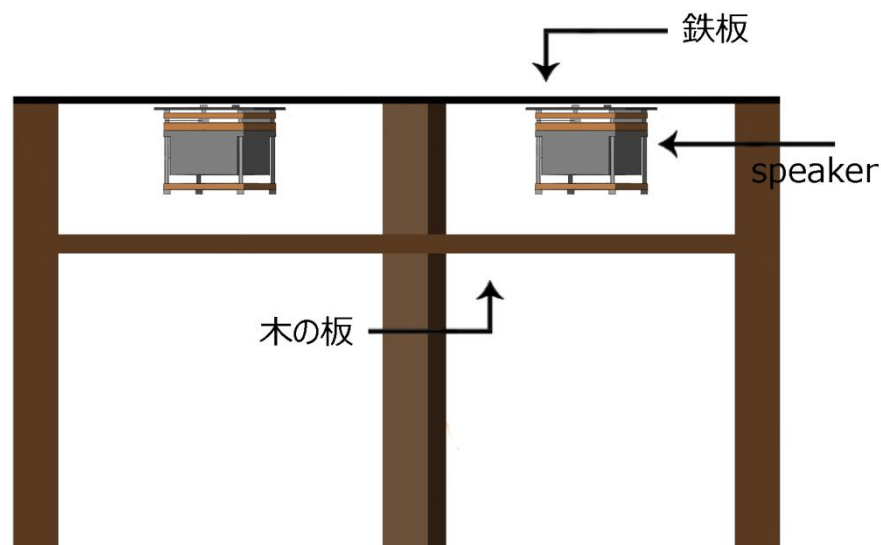
-次の写真は先の実験で分かった共鳴する振動の中で一番低い振動ともう一箇所のス피カーを振動し、共鳴させてお互いの振動に干渉し、新しい模様を見られるのを実験で確認した写真です。



2.実験と問題点

- まだ改善されいない問題点

- 実験をするたびに共鳴する周波数が微妙に変わることと急にどんな周波数でも共鳴しない場合があり、問題の原因としてはスピーカで鉄板の支えているのでそれでスピーカの振動がうまく伝わらないと仮説を立てて新しい設計をしました。



3. 作品完成のための問題点とこれからの目標

- まだ実験の段階でたくさんの問題が発生しましたが、一つのインスタレーション作品を計画し制作する中で思ったとおりにうまく進められないように問題点が発生し、それが時間管理の失敗に繋がるのが一番第変な問題になりました。
- まだ夏休みまでこの作品の実験や実勢策を進め、完成まで引っ張っていくのが目標であります。